

第34回能水会東京支部総会並びにOB親睦新年祝賀会開催のご報告

総会

平成30年2月25日(日)、上野東天紅に於いて総会並びに懇親会が全国10支部の支部長、8名のご来賓含め、101名の参画のもと盛大に開催されました。母校が受賞した第10回海洋立国推進功労者表彰での「内閣総理大臣賞」の垂れ幕を正面に掲げ、祝賀ムード一杯の会場の雰囲気の中で始まりました。

総会では東京支部長より、日頃の支部活動に対する御協力、御支援への謝辞、支部の現状を含めた挨拶の後、役員より事業並びに会計報告並びに2018年計画の報告が行われ、拍手を以て承認されました。岩崎会長より1年後の母校120周年に向けた取り組み等々、産官学協同の地域密着型事業活動のお話を頂きました。

本部渡辺事務局長からは「母校の近況報告」と学校周辺の紹介ではプロジェクターを使っての今の母校そして能生町が映し出された風景を見て、昔と比較された画像とお話にご皆さん感慨深いものがあり「オーオー」と歓声を上げ懐かしむ姿が印象的でした。

恒例新春セミナー

新春セミナーでは平成26年度より母校に着任され、今日まで母校発展の為多大なる貢献をされ、今月末に退職される現校長の久保田郁夫様より講話を頂きました。

演題は母校応援歌に因んで「強者等(つわものら)」サブタイトル「校訓の具現化・・・水産報告そして(強者等)」でした。久保田様は着任以来特色ある教育推進を産官学協同にて地域と共に協力に推し進められ、「最後の一滴」をはじめその活動が昨年の内閣総理大臣賞受賞に尽きると思います。その基盤となる『人間力の育成』をお話し頂きました。

概要はこれからはグローバル人材の育成が不可欠であり、それには学力だけでなく様々な課題を解決できる「人間力」を身に着けさせる教育が大事である。座学だけでなく現場現物主義で問題を解決する力を身に着けていくことでCOOPコープ教育(インターンシップの進化版)のように地域の企業と学校が連携して地域の課題を授業でも取り入れ、結果新たな産業の創出や地域人材の育成が可能になるのではないだろうか。またそのことが若者の定着を促進させ、地域活性に寄与することが出来るのではないか。これを校訓の精神「質実剛健・進取力行・水産報告」でおのおのが実行すればおのずと結果は見えて来ると、母校と地元糸魚川の将来について熱く語られました。最後に「不可能と思えば・・・そして諦めたら試合終了だ」と。この言葉で久保田校長の人間力を感じました。

OB親睦新年祝賀会

昨年に続いて御出席頂いた元国務大臣元衆議院議員の高鳥修様より子供時代、町長時代の能

生水産高校との関わり、そして栄誉ある総理大臣賞の受賞について、感激と期待を述べられ、89歳の年齢を感じさせない滑舌と杯を重ねながら笑いを交えて会場を和ませて頂きました。

また衆議院議員秘書:長 和秀様、東京糸魚川会会長:小林保博様の来賓祝辞でも母校の総理大臣賞受賞と今後に対する期待のお言葉を頂戴いたしました。

その後、前能水会会長の田中勉様及び、各支部長様により乾杯が発せられ酒宴が始まり、母校在校生から参加いただいた生徒会長の佐藤優樹君と佐藤愛子さん、松井胡桃さんに抱負を述べていただき一同心強く聞き入りました。

また、東京支部幹事 伊藤信雄氏より「同窓の集い報告(17回制)」をスライドで懇親内容を報告されました。いくつになっても同級生は良いものだなーとつくづく感じました。

イベント内容

能生から駆けつけていただいた三味線双子小竹姉妹の演奏でスタート、お二人は小さい時から三味線を学び数々の賞を受賞していて、現在各地の演奏会を行っておられます。姉さんの美咲さんは海洋高校の卒業生。その音色の新鮮味に会場は大いに盛り上がりアンコールになってしまいました。

続いて母校卒業生のキングレコード天翔 龍様による歌謡ショーが始まり久々の新曲‘ふたりの春’と‘夕陽の海岸’それにカバー曲‘冬桜’でさらに会場が盛り上がりました。

最後に新制18回漁業科卒業の幹事の中村 宏氏よりの謝辞と、大締めとして新制7回製造科卒業の吉田金吾様より最終を締めて頂きました。

今回も総会並びに懇親会が成功裡に終わることが出来たのはOBの諸先輩方、全会員の皆様方そして母校の関係者の方々、在校生及び能水会に関わって頂いた全ての皆様のおかげとっております。この場をお借りして御礼を申し上げます。会員維持拡大、各支部との連携など課題を抱えていますが、東京支部幹事一同能水会と母校のより一層の発展に向け更に精進して行きたいと思っております。何卒皆様の協力をよろしくお願い致します。

能水会東京支部 伊藤常男

